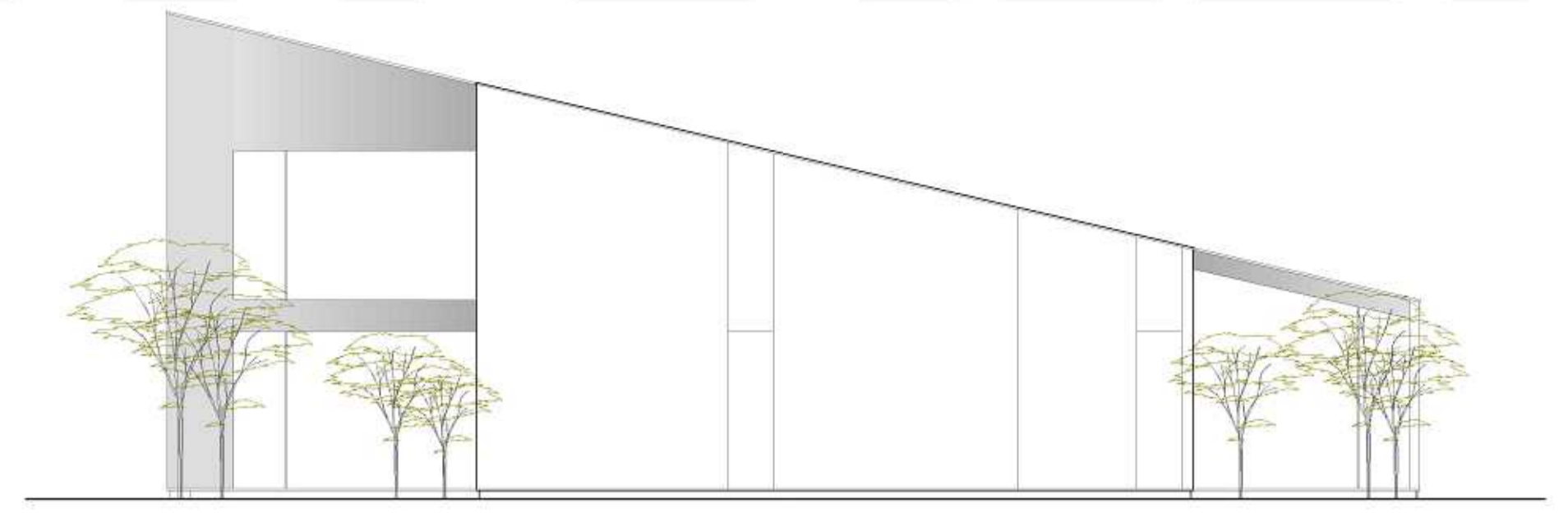
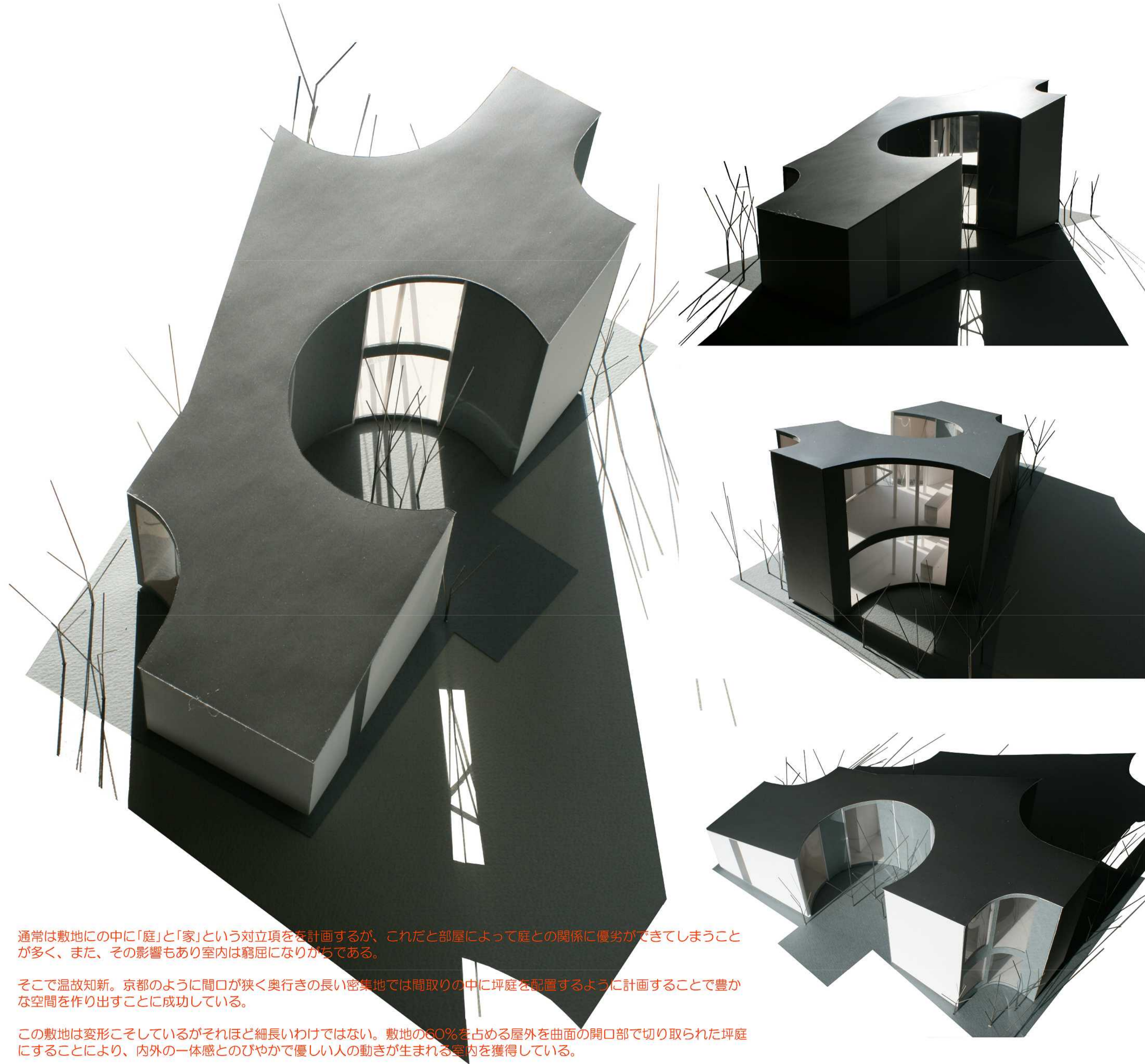
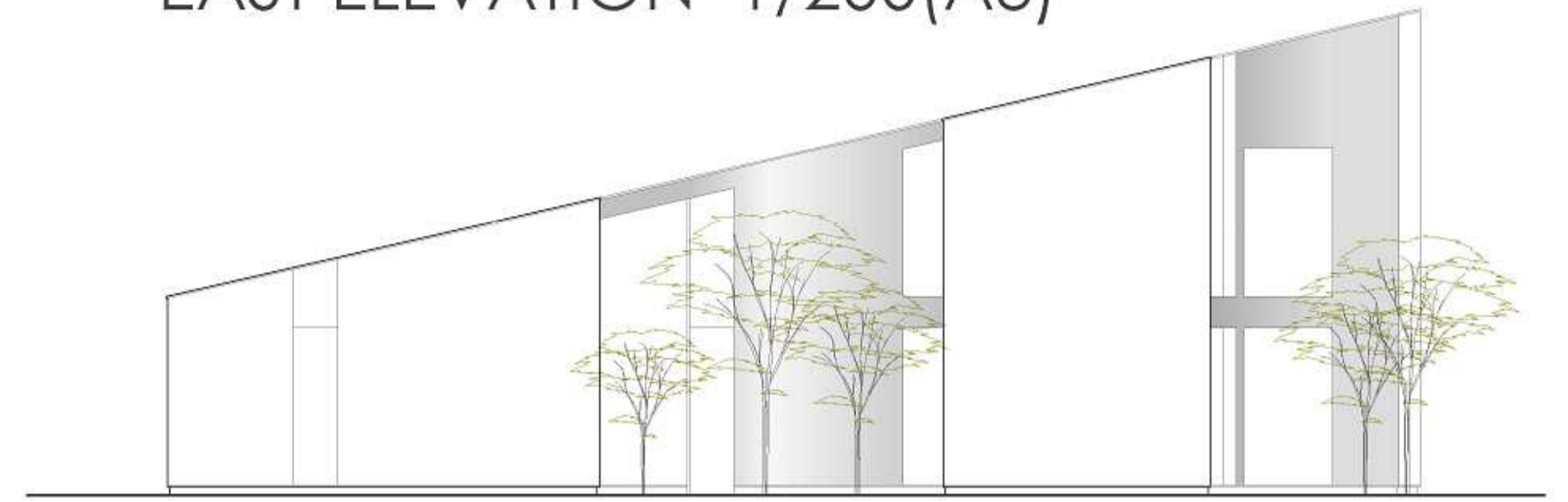


# 4 COURTYARDS HOUSE 07/12



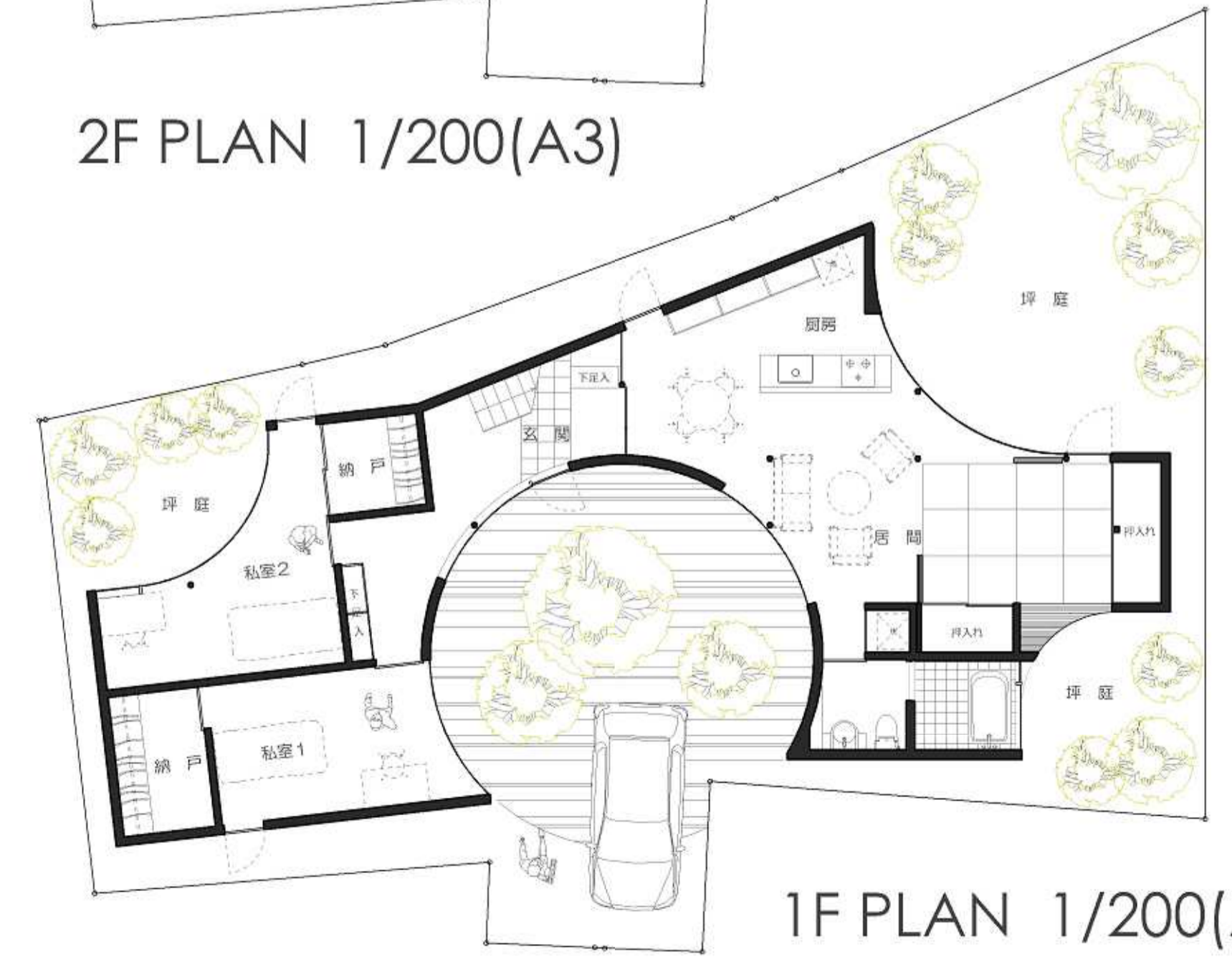
EAST ELEVATION 1/200(A3)



WEST ELEVATION 1/200(A3)



2F PLAN 1/200(A3)



1F PLAN 1/200(A3)

通常は敷地の中に「庭」と「家」という対立項をを計画するが、これだと部屋によって庭との関係に優劣ができてしまうことが多く、また、その影響もあり室内は窮屈になりがちである。

そこで温故知新。京都のように間口が狭く奥行き長い密集地では間取りの中に坪庭を配置するように計画することで豊かな空間を作り出すことに成功している。

この敷地は変形こそしているがそれほど細長いわけではない。敷地の60%を占める屋外を曲面の開口部で切り取られた坪庭にすることにより、内外の一体感とのびやかで優しい人の動きが生まれる室内を獲得している。